特定非営利活動法人緑のごみ銀行

キーワード：屋上庭園　生ごみ堆肥づくり

活動地域：東京都文京区白山地区

活動地域概要：

文京区は23区の中央北寄りに位置する文教と住宅の街。人口は20万人弱。明治より著名な文人・学者・政治家が多く集まった。出版・印刷、先端医療が盛んな地域。1590年（天正18年)、徳川家康の江戸入城で開発され、大名屋敷、武家屋敷が置かれた。江戸中期に市街化されて、中山道の街道筋に商店が建ち並び商業化が進んだ。 明治以降、広大な武家屋敷の跡に東京大学が設置されて以降大学周辺に出版社が集まり、それに伴って多くの文人達が集った。

団体・活動概要：

一人の主婦が自宅前の枯れた街路樹に生ごみからつくった堆肥を与えたことが団体の設立のきっかけとなりました。意気投合した4人の主婦が家庭の生ごみの堆肥化を始め、それ以来ごみの減量と街の緑化に努めています。家庭の生ごみのほか、学校給食の残飯やお寺の落ち葉等を回収し、土なしでの堆肥化に成功して国道交差点の花壇や区役所屋上見本庭園等で堆肥を活用してきました。活動には主婦だけでなく、小中学生、大学教授とゼミ学生、園芸専門家など多様な主体が関わっています。これまでに、環境学習や講演会などの普及啓発活動にも力をいれてきました。助成対象活動では、11階建てのマンションで堆肥を活用した屋上庭園をつくり、その屋上庭園を公共施設が欠落している地域の交流の場としても活用しました。今後も屋上庭園を基盤として環境だけでなく防犯教育など様々な地域の課題に取り組む人の輪を育んでいきます。

特定非営利活動法人緑のごみ銀行　●●●●●

設立：1998年　メンバー総数：52名
代表者：松本　美智子
連絡担当者：松本　美智子
連絡先：〒112-0001　東京都文京区白山2-29-6-1101
TEL：
FAX：03-3811-2838
E-mail：m53@u01.gate01.com
ホームページ：http://hw001.gate01.com/m53/

1　団体の目的と経緯

（1）テーマと目的

家庭の生ごみや落ち葉を使った、屋上緑化による地域の活性化

（2）地域の状況や課題、この活動を始めたきっかけ、これまでの活動経緯

文京区は、緑豊かで公共施設もたいへん多い所ですが、私達の住む白山は、区の中央にありながら公園や公共施設がなく、ドーナツの穴状態の地域です。その中で、貴重な街路樹の植栽が枯れ始め、何とかしたい！と思った主婦が自分の家の花や緑を植えたらどうかと、都道の管理者に連絡したのが、この活動のきっかけです。

実際には土が悪いが予算もないというので、行きがかりじょう自分の家の生ごみ堆肥で街路樹の土作りから始まり、面白そうと言う仲間が思いがけず4人もでき、グループを作りました。8年前の事です。

その後も、神田川の脇で建設局と堆肥作りを続け、その堆肥を使って文京区の表玄関でもある大きな交差点に花壇を作りました。毎年地域の小学生と総合的な学習の時間に花を植え替え、毎週、花壇の手入れをしています。この間、地元の町会も生ごみの堆肥作りに参加、50世帯の生ごみを集めるようになって2年目に、文京区も生ごみの回収に協力。やがて区の委託で「生ごみ堆肥化モデル事業」になりました。2001年にＮＰＯに認証されています。

春日町交差点の花壇

生ごみ堆肥の仲間づくりも、人と人が知り合い、つながりができると、比較的簡単に堆肥作りを始めてくれます。地域に顔見知りが増えれば、環境問題に限らず、子育ても少子高齢化も防犯も防災も、地域の問題の高いハードルを下げる事ができると実感しました。地元の町会や小学校とのお付き合いを続けて解ったことは、毎日の暮らしは地域に支えられ、地域の中で人と人のつながりがとても大切だということでした。そしてみんな人の役に立ちたいと、きっかけを待っていると思いました。

そこで誰でも関係のある生ごみと人気の高いガーデニングを、地域活性化のきっかけにしよう、8年間の活動経験を生かして屋上庭園を作り、公共施設のない白山に地域の交流の場を！と、この屋上庭園交流会を計画、準備を始めました。貴財団の助成決定は、私達メンバーにとって、神様から大きな勇気を与えられたような気持ちになり、責任感とチャレンジ精神が高まりました。

2　活動の内容

・準備活動

みんなで生ごみを持ち寄り、何回も何もない屋上でイメージを話し合い計画。

事業担当者の決定、事業計画の再確認、日程、調整、 準備した花苗の手入れ。

役割分担の確認　→　庭園造りは、自分達でできる事と業者に依頼する部分を検討確認。

屋上庭園をつくったマンションの周辺

屋上庭園をつくる前のマンション屋上

・生ごみ堆肥づくり

町会50世帯の生ごみを毎月回収し、屋上で落ち葉に混ぜて腐葉土を作る。

時々切り返しをして、均等に発酵させ、完熟したものを用意する。

・庭園作り作業手順

1）防水耐根シートを張り、枕木を並べて固定する。

2）木枠の内側に不燃シートを張り、軽量ごろ土を入れる。

3）軽量土壌ネニプラスを入れる。

4）軽量土壌ルーフソイル１号２号を入れる。

5）完熟した生ごみ堆肥を混入する。

6）浮き上がった土壌を踏んで落ち着かせる。

7）たっぷりと潅水。

8）花苗を植える。 ペチュニア、ブルーベリー、ローズマリー、アナガリス等

9）その他　トレリスを設置し、ベンチを組み立てる。

・屋上庭園交流会参加協力

町会、地域の小中学校、高校、大学、障害者施設、企業、お寺、市民団体、受講者等

・屋上緑化の検証

花壇作成手順を簡単に記録　ビオラで生ごみ腐葉土の生育を比較 ☆P36添付資料

・ホームページによる情報公開で新たなネットワーク作り

8月からは毎月10回以上更新、10月10日にカウンター設置

予想以上の訪問者数と、ＨＰの反響に驚いている

・その他　広報活動

文京区エコリサイクルフェア、 区ボランティアまつり、 区主催生ごみ交流会、区環境展などにおいてパネル展示も含め、屋上庭園交流会を紹介し、参加者を募集

ガーデニング講習会、エコガーデン環境講座、屋上庭園シンポ等、各講演会、講座で当事業を紹介講演中の質疑だけでなく、講演後も相談や問い合わせ等があり、受講者の中から、屋上庭園交流会に参加した人も多い

・活動の特徴、

季節限定の要素、屋上の為、季節、天気、気温、風の強さ、その変化に左右される。

・工夫点、苦労した点

台風、雪、厳寒の為、スケジュールが変更された。ガーデニングに不向きな季節でも作業はあり、活動と交流会を別にしたり、種まき、挿し木などを屋内の作業に変更。庭園作りのうち、2日間は、万一の事故を考え、ボランティア保険に全員加入している当ＮＰＯ会員とした。

ベンチは自分達で組み立てたが、当初活動の中に予定したトレリスの設置は、一度の挑戦で挫折。強風で屋上から飛散する恐れありとの事で、専門家にやり直しを依頼した。

3　活動の成果

・事業の目的

1　焼却炉のない区で、生ごみや落ち葉を堆肥化し、屋上緑化をはかる。

2　活動を通じて、公共施設のない地域の活性化をはかる。

3　ホームページで活動の普及啓発と新しいネットワーク、地域の主人公を増やす。

生ごみを回収し腐葉土づくり

屋上緑化スタート

1）屋上庭園は、花がたくさん咲き植物が大きく育つなど、予想以上に成功した。

2）残念ながら今年度は、不充分であった。特に厳寒期に呼びかけたとはいえ、屋上庭園の建物の住民達の反応が殆ど無かった事は、たいへんショックだった。この建物も隣近所に無関心という都会の典型であるなら、まずはここから何とかしなくてはならない。

3）ホームページは、思いがけず、多くの訪問者があり、様々な反響があった。
問い合わせ、相談のメールの内容は、殆どが生ごみ堆肥の作り方だったが、3月に屋上庭園の作り方についての問い合わせが2件など、屋上庭園については12件。屋上庭園をテーマに講演依頼2件。

・地域、団体の変化

1）地元の町会の人達と顔を合わせ話し合う機会が増え、交流が深まった。
町会の人が当ＮＰＯの事業に参加してくれるようになった。
屋上庭園交流会、お茶の水橋の下、春日花壇
ＮＰＯの会員が町会の行事に参加した。
防災訓練、お葬式のお手伝い、炊き出し、新しく3人が町会役員になる等
今年は、新しい町会婦人部長に、当ＮＰＯの会員が選ばれた。

2）地域の小学校も含め屋上に気軽に来る人達で、少しずつ顔見知りが増える。

3）ガーデニング同好会（仮称）2006年4月から始まる。
今まで参加の少なかった二人の会員が、なんとなく言い出して、屋上庭園交流会の参加から新しく会員になった人達と町会の人達で自主的に始まった。5月は交流会に合流予定。

4）地域で始めた「大観音まつり」、新しく地域の大学と協働新事業を計画。

助成事業のお陰で、当ＮＰＯにとって大きな社会的信用が獲得できた事を感謝している。

・新しい展開

貴財団の支援による屋上庭園交流会で、どんどん増えている町会の生ごみ堆肥を回収している事を知った文京区は、2005年の10月から、お茶の水橋の下を提供し、落ち葉・剪定枝・学校給食処理機の堆肥も含めた、「生ごみ腐葉土作り」の事業を当ＮＰＯに委託した。

この屋上庭園交流会で、使いきれない生ごみは、橋の下で処理できるようになり、できた腐葉土も必要に応じて使用できるようになった（一部オフレコですが）。

私達の活動地は、東京都の都道や都有地からはじまり、区立第四中学校跡地となり、生ごみ堆肥を作ってきましたが、常に期限付きで、中学校跡地の使用も2005年3月まででした。当ＮＰＯにとって、殆ど恒久的な活動地を提供されたのは初めてです。しかも、この事業は、これまで私達の事業提案を受け身で聞いていた区の資源環境部、土木部、学校教育部の3つの部が、いわば横割りの形で当ＮＰＯとの協働事業を提示してきたものです。
区の幹部からは、このような前例はないと聞きました。私達にとっては、遙かかなたの所から、急にやってきた超特急に飛び乗ることができた感じです。こ

屋上庭園が交流の場となっている様子

区役所テラスの屋上見本庭園

の事業が成功すれば、「区内の落ち葉を全て活用する」事も夢ではなくなり、感謝したい緑の保有者の負担を減らし、緑豊かな地域を守る為に、大きな前進になると思います。

・屋上緑化の問い合わせが、段々増えている。

特に、2006年になってから、次々と行政や企業からも、問い合わせが増えてきました。ホームページを見たという屋上緑化の問い合わせ、相談が、4月になってからさらに増えています。

屋上緑化については、あれほど騒いでいた東京都があっさり旗を降ろし（たようにみえます）、張り切って屋上緑化に参入した企業も、数々の問題、課題を抱え、挫折気味と聞いていたので、外部からの働きは、私達の想定になく、独自に屋上緑化を研究し、この屋上庭園交流会に取り組んできました。

緑化は命のある植物との共生であり、生ごみ堆肥も生き物で、私達は、生ごみ堆肥も緑化も、同じ生き物どうし、命あるものとのお付き合いと考えています。そして、屋上という過酷な状況、限られた条件では、いっそうその技術の蓄積が重要です。

私達は、生ごみの堆肥作り、お寺での落ち葉・腐葉土作り、生ごみ堆肥を使った交差点の花壇、区役所テラスの屋上緑化など、貴財団の支援のお陰で、今までの経験を生かすことができ、白山の屋上の庭園作りを成功させる事ができました。私達にとって何より大きな自信になり、問い合わせや相談においても積極的な対応になりました。

4　活動資金

（1）助成活動における活動資金のうち、助成金以外の財源の内訳とその割合

助成金以外の財源は会員の寄付によるもので、助成事業全体の約3分の1の割合です。

（2）助成期間終了後の活動資金確保の見通しとその方策

今回の助成により、作成できた屋上庭園とホームページの二つは、当ＮＰＯの大きな基盤になりました。これからさらに有効な活用をはかって、活動を広げます。

ＮＰＯは、経済的な自立が求められていますが、収入を得ようした場合、私達の活動では、種類、目的を考えると、方向がぶれやすいと思います。介護などのように、やりたいことを一生懸命やる事で受益者負担の対価が生まれる事業とは異なり、街に美しい花壇を作ったり、結果的に落ち葉や生ごみを減らしても、受益者を特定できません。本当に不特定多数の為の活動で私達の誇りである、としていいのか、活動費を得る為にサイドビジネス的な活動が必要なのか、実際の活動内容によりますが、悩ましいところです。只、私達は発展途上中で、失敗も含め経験は自分達の資本になると考えており、行政も企業も過渡期であり、社会もみんな変化している中、二者択一ではなく、その時、無理がなければ全てがチャンスだと思います。

5　課題

（1）課題と解決方策

１）組織力、ＮＰＯとしての体力、能力も含め課題はたくさんありますが、まず、現状で何ができるか、できるようになったか、どこに無理があるかをもう一度みんなで検討し、さらに次のステップアップの合意をはかる。

２）ケースバイケースではあるが、他の市民団体や地域の大学、行政、企業との連携あるいは、そのお手伝いも含め人の輪を作り、又自分達の学習の場として積極的に参加する。

お茶の水橋下の作業場の目の前はＪＲの駅

お茶の水橋下で生ごみ、落ち葉混入作業

確かに何でも連携すればいいということではないし、現実には、主張、立場の違いや遠慮の反動やすれ違いによる不協和音など、様々な困難があるが、それでも活動の為に、他の主体との協働は、これから益々重要になる。その調節の方法や、連携の経験を積み重ねて共生の道を探す事は、社会から信頼されるＮＰＯとして生き残る条件になると思う。

３）経済的な自立も視野に入れる。（前項）

４）当ＮＰＯの目的を達成するため、自分達の得意分野を冷静に把握し、様々な切り口で可能性を考え、多くの対象に向かって積極的にアプローチを続ける。

５）突然の依頼も、チャンスとして対応できるよう準備しておく。
学校の先生を指導する職員研修会のように、こちらから提案できないようなことも、学校側からの依頼があれば、非常にうまくいく。結果的にこれがきっかけで、この学校との環境活動の協働が始まった。
10月の交流会もその流れである。

雪に覆われた屋上庭園

６　今後の展望

助成のお陰でできた屋上庭園とホームページを当ＮＰＯの大きな基盤とし、地域の活性化をめざして、今後も楽しく活動を続けます。

１）屋上庭園を毎月地域に解放し、地道に交流会活動を続けること。

２）一年を通じて美しい屋上庭園を保持する研究を重ねること。

・私達流「屋上・エコ・ガーデン」の作り方
簡単な屋上花壇の作り方、注意点。植物の選び方、育て方、増やし方など。

・私達流「屋上・エコ・ガーデニング用土」の作り方
生ごみ、落ち葉、剪定枝、学校給食処理機処理物などを使った、土作りの方法

３）ホームページで、屋上庭園交流会や上記の内容を、継続して発信すること。
そして当初の目標の一つである地域の主人公を紹介していく。

４）現在、連携している他の市民団体、大学、行政、企業、小中学校、ＰＴＡ、町会、介護センター、お寺、商店と気楽に話し合いを続け、無理をしないで、さらにその対象を増やし、**環境問題に限らず、人と人のつながりを大切にしていく。**

短期活動計画
4月　ガーデニング同好会（仮称）が始まりました。
7月　地域の「大観音まつり」協賛　（5月より準備）

10月 エコリサイクルフェア
11月 ボランティアまつり　他

想定外：
残念ながら不採用だったが、この屋上庭園が大手ＣＭの候補になった。
たまたま交流会参加者の紹介でＨＰも見たと連絡があった。下見のあと、会社から７人が屋上に来て、採用された場合の話として高額の使用料を提示されびっくりした。
屋上庭園について、今後、全く想定外の可能性もあることを知った。何が起こるかわからないＮＰＯの活動は、この未知の部分が魅力である。
ＨＰの屋上庭園について、問い合わせが増えている中、最近、又たいへん魅力的なアプローチが２件あり、私達は、当ＮＰＯの可能性を信じてワクワクしています。

白山通り沿いの植栽風景

☆　添付資料　　屋上庭園　活動及び交流会の記録から

生ごみ堆肥による屋上庭園の成育

今回、屋上に作った花壇には、軽量土壌＋生ごみ堆肥＋手作り腐葉土を使用したが、花が見事に成長し驚いた。夏のペチュニアは、観察、鑑賞に終わったが、春のビオラで比較した。

		屋上庭園	プランター	
基本土壌		軽量土壌ルーフソイル1号2号 軽量ごろ土		
混入物		生ごみ堆肥で作った腐葉土	なし	
結果 4月20日	一株の 大きさ	直径23～32㎝ 高さ12～17㎝	直径10～12㎝ 高さ 6～ 7㎝	
	形状	見事な半円球		
	花数	60～70	10～20	

実験植物　黄色のビオラ　　株の大きさ 3㎝　　植え付け時期 10月

これほど大きな差ができると思わず、安易な設定で行った為、混入物かプランターの大きさの違いかこの実験では判明しませんが、今回、生ごみ堆肥で作った腐葉土は、屋上緑化の土としても、予想以上の成果をあげたと思います。

不快生物、その他について

7月にナメクジが大発生した。最初は箸で捕っていたが、追いつく様子がなく、薬剤を使用。
それに懲りて、ゴキブリを見つけたときは、手作りのホウ酸団子を作って早めに対処した。
アリは、多いような気がしたが、特に何もせず様子を見た。
堆肥の中にミミズがたくさん住んでいて、夏ごろはシャベルを入れると誰かを傷つけそうだった。花壇では5㎝くらいの小さいものしか見ていない。
フェンスネットの部分があるせいか、カラス、ハトは近づかない。
スズメが遊びに来るほか、3種類くらいの小鳥がフェンスに留まって囀りを聞かせてくれた。
蝶、蜂も時々見かけた。しっぽの先まで入れて4㎝くらいのヤモリに遭遇したときは驚いた。
小さいながら、全て部品がそろっているようで立派に見えた。それ以来、必ずカメラをオンにしている。プランターの下には必ずいたダンゴムシは見かけない。

ペチュニアの冬越し実験

実験植物　ペチュニア（さくらさくら）
10月　地域の小学生達に参加してもらって、ペチュニアの間にビオラを植えてもらった。
小学生の植え込みは全体のバランスが悪かったが、できるだけそのままにして、大きく穴の空いた所のみ補植。花が終わった後も抜き取らずに短く刈り込むだけにした。
11月に生ごみ堆肥の腐葉土を約300㍑花壇の上部に入れた。
雪も降り、厳しい寒さだったが、見事に冬越し成功。　早くも4月に花が咲いた。